



Q 先月、嫁ぎ先の母が亡くなりました。毎年、お正月には家族で私の実家へ帰省していますが、行ってよいか相談したところ、よいという友人とウガンブソクになるからダメという友人がいます。小学生の娘たちは、私の実家が大好きで本土の初詣やお年玉を楽しみにしています。やはりウガンブソクになるのでしょうか？
(南城市Kさん・40代女性)

A 年の瀬も近づいていまして、早急な判断が必要になりますね。正月の帰省について、お友達のアドバイスも鑑みながら、ご回答させていただきたいと思えます。

新暦の正月・旧暦の正月・グソ一の正月

皆さんは、正月といえは元旦からの三が日をイメージされると思いますが、沖縄では新暦の他にも、旧暦の正月(平成30年は2月16日)と後生のお正月(グソ一ヌソ一グワチ)とされる旧暦1月16日(平成30年は3月3日)の十六日祭(ジュールクニチー)の3つがあります。これらに共通することは、正月の季語でもある「慶賀」の祝儀色がかがいが知れ、いずれも「1年の計」をたてる年始の年中行事であるということです。また、十六日祭は一部地域で

は清明祭より優先される年中行事だともされています。

新十六日祭のしきたり

葬儀や告別式をお勤めされた後、初めて迎える十六日祭のことを新十六日祭(ミージュールクニチー)と呼びます。地域や家庭によって多少の違いはありますが、重箱の御三味(ウサンミ)のかまぼこや盛り菓子などが、紅色ではなく白色をお供えます。白色は、骨身(フニシン)という故人の大切な遺骨を表現しているとされ、悲哀や敬意にも関連していることから、喪中の年中行事や若焼香(ワカスコー)という一周忌から十三回忌までの典型的なお供え物の色彩になります。

新十六日は、ミーグソ一ヌソ一グワチとも呼ばれ、前述のとおり葬儀後のウヤファーフジの初めてのお正月にあたります。新十六日は、一般的な十六日と異なり、喪中であるため親戚周りを行わず自宅にてご焼香のお客さまをご丁重にお待ち受けするという沖縄のしきたりがあるともいわれます。友人のアドバイスは、来年の新暦の正月もミーグソ一ヌソ一グワチのしきたりに該当するかしないかの判断からでたものでしょう。

ウグワンブスク?

ウグワンブスクについて、ご和讃(わさん)という

経の参考書には、「安養浄土の莊嚴(しょうごん)は、唯仏余仏(ゆいぶつよぶつ)の知見なり」という文章があります。直訳すると、「仏の世界は仏でしかわからない、とてもありがたいものである」ということになります。沖縄のしきたりを重んじながら、この味わいを拡大解釈させていただきますと、「ウヤファーフジのグソ一の世界は、私た

ちではなくウヤファーフジでしかわからない、とてもありがたいものである」ということになりそうです。あくまでも、拡大解釈の域を超えませんが、生身(イチミ)というこの世界から、ウグワンの満足や不足を論ずるときには、自己ではなくウヤファーフジを中心とする謙虚さがあつてしかりかもしれませぬ。「目の前のまつげの如く、近くして見ること能(あた)わず、仏・極楽」という詠み人知らずの歌もあります。グソ一は、沖縄の年中行事にあつて身近でありながら、自分のまつげのように見えるようで見えない尊い世界なのかもしれません。ウグワンブスクの有無を人さまに指摘することについては、お互い慎重な心持ちでありたいものだと思います。

Kさん、ウグワンブスクについては、今回のご質問とは別問題です。まったく、該当しませんのでご安心ください。

い。友人の方には、アドバイスをいただいたことについて感謝の気持ちをお伝えいただければと思います。

喪中のお正月の考え方

新暦の正月・旧暦の正月・グソ一の正月の3つのお正月は、相互に準ずるといって回答をさせていただきたいと思えます。来年の正月の帰省は、今回は喪中になりますので、ご遠慮されることが賢明かと思えます。新暦も新十六日祭の応用として、葬儀後の初めての正月ととらえるのが一般的です。実家へは、本土という初正月にあたるということをお伝えされ、長男の嫁として祭壇や仏壇のご供養を優先してお勧めいただければと思います。お子さまたちにとっては、おばあちゃんを大切にしのぶお正月の過ごし方もあるという、「いのちの教育」を学ばれる尊い年始になることでしょう。

